



南極観測隊経験者に インタビュー



41次・54次夏

いまえ なおや
今栄直也さん

国立極地研究所研究所 地圏研究グループ助教
南極隕石ラボラトリー

(2016年7月現在)



南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

いずれもフィールドワーク（地球外物質の採集）を行いました。41次越冬隊では、昭和基地から南西へ直線距離で約350km離れた地域にやまと山脈があり、その周辺に分布する裸氷帯^{らひょうたい}で活動しました。やまと山脈は内陸氷床を貫いて基盤岩が突出した山脈で、南極ではごく僅か^{わず}しかかない特異な地域です。この周辺には世界最大（約3500平方キロメートル）の裸氷帯が広がっています（東京の面積の約1.5倍）。この氷上に様々な隕石が大量に見つかります。これは氷床流動の特異な行きつく先（通常海に冰山として流出）で、ここは風が強いために、氷の消耗^{しょうか}（昇華）の結果として、隕石が濃集^{のうしゅう}すると考えられています。日本隊はこの隕石濃集の事実を世界に先駆けて発見しました。類似した地域は南極の他の地域にも点在し、54次夏隊ではベルギー隊と合同でやまと山脈からさらに西側のナンセン氷原という地域で活動を行いました。採集した隕石は太陽系の成り立ち過程を解明するための直接的な研究材料として役立てています。



初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

隕石探査に先立ち、地球内部研究に関する内陸調査に参加するため、しらせからヘリコプターで直接内陸の活動拠点（S16という地点）へ行きました。どこを見渡しても雪面で、右も左もわからない状態です。目印がなく、何から始めれば良いのかわからない状態でした。



一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

普段できないことばかりで、毎日充実します。

越冬隊では、休日に、パンを焼いて皆で食べるというのは普段できるようなことですが、隊員同士で行うのはユニークで楽しいです。越冬中に、屋外で、バレーボールやサッカーなどもしました。寒かったですが、やることに意義があり、結果的には楽しい思い出となっています。

厳しい環境で、隊員同士が共通した目的を持って協力することは、体育系の部活動と共通するところがあります。